



▲認知症の人が窓口を訪れた場合を想定し、声かけなどを実践。参加者同士でより良い対応方法を考えました

出張します

「認知症サポーター養成講座」を希望する事業所や団体は、健康福祉課（☎ 582-1133）または町包括支援センター（☎ 582-1188）までご相談ください。

災害時の救急救命のために
住民自治協議会が防災研修

町住民自治協議会による防災研修が11月2日、イコーズで行われ、50人が参加しました。当日は、日本赤十字社の職員を講師に、災害時の救急法を学びました。AEDを使用した心肺蘇生では、倒れている人の意識や呼吸

の確認作業をはじめ、胸骨の圧迫やAEDの使用手順などを確認。また、三角巾を使い、けが人の腕や足の固定方法などを体験しました。参加者らは、講師の動きを参考に、実演を重ね、救急救命の手法を身につけました。



▶一つ一つ丁寧に手順を確認しながら研修に臨む参加者

「献上桃の郷」を全国へPR
町広告付き年賀はがき大好評

町特産の桃がデザインされた広告付き年賀はがきの販売が11月1日から始まりました。発売に先立ち、記念品贈呈式が10月30日、役場で行われました。式では、日本郵便株式会社の太田浩幸福島県北部地区統括局長岩代

郵便局長と高橋町長らが出席し、年賀はがきのデザインを披露しました。広告付き年賀はがきの価格は、通常の年賀はがきより5円安く、1枚80円で販売。町内のほか、近隣8市町村の郵便局で購入できます。

地域で見守る力育む
認知症サポーター養成講座

桑折郵便局と福島信用金庫
桑折支店の職員を対象とし
た、認知症サポーター養成講
座が11月7日、桑折郵便局で
行われ、約15人の職員の皆
さんが参加しました。当日
は、認知症の基礎やA T M
操作が難しい人などへの対応
など、支援が必要な人へのサ
ポートの仕方を学びました。

2025年には高齢者の5人に1人が認知症になると予想されています。あなたも認知症の人とその家族を応援する「認知症サポーター」になりませんか。

次回は12月20日にイコーで開催予定。詳細は、健康福祉課または町包括支援センターまで問い合わせください。

地域で見守る意識高める
高齢者見守り声かけ訓練

高齡者が行方不明や迷子になったという想定で、実際に搜索や声かけを行う「高齡者見守り声かけ訓練」が10月10日、伊達崎地区で行われました。

訓練には、介護関係事業所の職員や民生委員、

伊達崎小学校の教師や児童らが参加。高齢者役2人が地区内を歩き、参加者らによる声かけやスマートフォンで読み取るとコールセンターの電話番号が表示される「見守

りQRコード」の利用方法を確認しました。



▶ 高齢者役に貼られた見守りQRコードを読み取る参加者

在宅介護者をサポート
「なるほど、なっとく」介助法講座

在宅で介護している家族や、これから介護をする可能性がある人を対象に、「なるほど、なっとく!」の介助法講座が11月6日、イコーゼで行われ、20人が参加しました。当日は、介護アドバイザーの下山名月さんを講

師に、「本人の残っている機能と意欲を引き出す介助」を学びました。ベツドから車いすへの移乗動作や椅子の座り直しなどの場面を想定し、参加者同士で実践。「わかりやすくとても勉強になった」と好評でした。



▲コーヒーやお菓子を食べながらリラックスした雰囲気
で、家事・育児の悩みや考え方を共有しました

家事・育児の悩みや考え方を共有
パパとママの子育てカフェ

福島信用金庫と町の連携協
定事業「パパとママの子育て
カフェ」が10月12日、役場で
開かれ、子育て真っ最中の世
代23人が参加しました。

当日は、株式会社ケイリー
パートナーズの鷺谷恭子さん

による「柔軟な働き方と子育てとの両立」をテーマとした講演や福島県男女共生課職員による家事・育児シェアシー

トを使用したワーキンググループなどが行われました。参加者からは「夫婦で現状をシェアできてよかった」、「子育てについて意見交換ができてよかった」などの感想が寄せられました。

町では今後も、「第3次おり男女共同参画プラン」に基づき各種事業を展開していきま
すので、ぜひご参加ください。